

アメリカのNPO

ジョブバンクで
求人・求職調整

前回紹介したAARPニューヨーク州のジョブバンクは、行政や他のNPOのパートナーシップによってネットワークを組み、高齢者の就業支援を行っている。行政やNPOは、それぞれが持っている求人・求職のデータを共用しながら、マッチング(一致)させていく。ネットワークの主要メンバーは、同地の観光の中心地タイムスクエアから徒歩で五分と離れていない場所にあるビルに入っている。このように行政の事務所が都市のあちこちのビルに散らばっているのは、典型的な都市型のスタイルだ。

州労働局のバトリシア・ドリンさんは、ジョブバンクプログラムができた当初からの常連メンバーだ。職業紹介社会復帰カウンセラーという肩書きを持ち、あらゆる面から就業希望者をサポートする。

NPOと行政の連携 >上<

また、視覚障害があってもジョブバンクは、求人を探して、労働局のデータベースで、者委員会との連携により、視覚障害者が登録することにより、検索ができるようなサービスを行っている。仕事を探して、サービスを使用できる。

また、視覚障害があってもジョブバンクは、求人を探して、労働局のデータベースで、者委員会との連携により、視覚障害者が登録することにより、検索ができるようなサービスを行っている。仕事を探して、サービスを使用できる。

州・市とネットワーク構築

いる人の中には、インターネットの使い方を知らない人も多いが、使い方は丁寧に教えてくれる。

一方、ニューヨーク市の高齢者雇用部もジョブバンクのデータには、トワークの一員だ。高齢者で就職活動をしている人のほとんどが、ネットワ

「ジョブバンクのデータには、トワークの一員だ。高齢者で就職活動をしている人のほとんどが、ネットワ

「ジョブバンクのデータには、トワークの一員だ。高齢者で就職活動をしている人のほとんどが、ネットワ



(上) NY州労働局カウンセラー、バトリシア・ドリンさん
(右) NY市高齢者雇用部長代理のジャニス・チュンさん



ことが多くあった。(ウイマラシリ・ヒロミ AARPボランティアコソルタント)